

「たたら製鉄の里」を尋ねて

鳥根県の奥出雲に、日本で唯一の「たたら製鉄」の里があります。

千年以上の歴史を持つこの地域は、良質の砂鉄が採れたことと、木炭が豊富であったことで「玉鋼（たまはがね）」を生産して来ました。玉鋼は、日本刀の原材料となり、世界で最も純粋な鋼と云われます。

日本刀は、「折れず・曲がらず・切れ味が鋭い」という三拍子が揃う世界的に観ても独特な刀です。日本固有の鍛冶製法で作られた刀で、平安時代末期以降、日本の刀の主流となりました。「折り返し鍛練法」で鍛造される鋼を刀身とする刀です。

現在、日本刀の刀匠は、全国で約百人だそうです。ほぼ全員が原材料を、このたたら製鉄の玉鋼に頼っています。

粘土で作った「たたら炉」に、十トンの砂鉄と、十二トンの木炭を交互に入れて、三日三晩の操業で、約三トンの鉞（けら）が採れます。この鉞に日本刀の原料となる良質の玉鋼が豊富に含まれています。

砂鉄の採掘方法は、専ら山を削り、その中に含まれる0・三%の砂鉄を採取するという方法によります。

山を削った大半は泥となり、川を伝い下流へと流れ、約千年の間に宍道湖に広大な平野をもたらしました。

採掘された後に残った土地は、石垣を積み、棚田として活用し「仁多米」として貴重なブランド米になっています。循環型環境保全が見事に保たれています。

日本刀は、武士の魂であり、威厳の象徴でもあります。

その作成プロセスを知るにつけ、改めて日本の伝統・文化・精神・技の深さを感じます。

「しのぎを削る」「さや当て」「切羽詰まる」「罫迫り合い」「相槌を打つ」等々、刀に関することわざも沢山あります。

日本人が日本人としての自信と誇りを取り戻すためにも、是非一度、こういう場所を尋ねてもらいたいと願っています。

社長、自らの業務で、自らの場所で、自らの役目に全力投球して参りましょう。

先行き不透明な今こそ、もう一ひねり、もう一工夫、もう一步深く、自の事に誇りを持って、日本を支えて参りましょう。

今月のポイント

千年の歴史が未来を

切り拓く礎となる

